

## 平成 29 年度第 1 回東海市地域公共交通会議 会議録

- 会議の名称 平成 29 年度第 1 回東海市地域公共交通会議
- 開催日時 平成 29 年 6 月 20 日（火）午後 1 時 30 分から午後 3 時まで
- 開催場所 東海市役所 302 会議室（3 階）
- 出席委員 近藤福一（会長）、渡邊元芳（副会長）、嶋田喜昭（議長）、勝田厚秀、加藤大勝、天野朝之、藤田重記、大脇美一、清 信裕、小林治代、伊藤 勝、大里美栄子、片山雄介、秋山和子、福士直子、吉川 登、岡田英雄、守山 睦、富田弘敏、脇田英生、桑原良隆、花田勝重
- 欠席委員 古田 寛、小野偉稔、川口松廣
- 事務局 総務部長、危機管理監、交通防犯課長、同統括主任、同主任、同主事

○ 傍聴者の数 なし

○ 議題及び審議の概要

1 開会のことば

2 会長あいさつ

（会長）

人口減少、少子高齢化の進展など社会経済環境の大きな変化の中で、多くの自治体では対応に苦慮していると聞いている。東海市は人口も着実に増加するなど、元気な愛知県の中でも高い評価を得ている。

当会議では、今年は 10 人の新しい方に御参加いただき、東海市地域公共交通網の推進、循環バスの利用促進などについてさまざまな角度・それぞれの立場から積極的な議論をいただき、課題の改善につなげていきたい。

3 委員自己紹介

各委員自己紹介

4 副会長、議長及び監事の選出について

設置要綱第 5 条第 3 項に基づき、渡邊元芳委員を副会長に会長指名。同条第 5 項に基づき、嶋田喜昭委員を議長に会長指名。第 10 条第 1 項規定に基づき、天野朝之委員及び大里美栄子委員を監事に会長指名。

## 5 報告事項

## (1) 地域公共交通会議について

中部運輸局愛知運輸支局による「地域公共交通会議」についての説明。

## (2) 前回の会議録の確認について及び

## (3) 循環バスの利用状況等について

事務局による資料 2、資料 3 の説明

(委員)

東海市の高齢者運転免許証自主返納支援事業利用者及び循環バス無料パスケース利用者が多く、公共交通があっても高齢者が利用しづらいという地域がある中で、よい事例であると思う。一方で、循環バスの無料利用者が増えたことで収入が減っている。高齢者の利用を促進することで収入が減少することについて、市としてどのように考えるか。

(事務局)

収入の減少については、高齢者の無料化に伴うものが大きいことは承知している。市としては、高齢者の外出を促進することで健康寿命を延ばし、将来的には介護費や医療費の削減効果を狙っている。バスの収入だけに着目すると確かに減少しているが、市として全体を考えればプラスの面に働いていると考えている。

(委員)

市は、高齢者が外に出ることによる健康維持、ひいては医療費の削減につなげていきたいということだが、公共交通機関をどんな方が使うのかを、もう一度見直すべきではないか。バスを家の近くまで走らせるなど、対象に合わせて弾力的に運行できる手段の検討はどうか。法律的にはできるのか。

(委員)

バスはバス停でしか止まることはできないと法律で定められている。過疎地などでは例外もあるが、東海市の人口規模では対象とならない。また、バス停の設置場所について駐停車のことなど、安全面などに留意することも必要である。

(議長)

東京ではタクシーの乗合実験を行うということだが、まだ実験段階である。

今後、さまざまな公共交通手段が生まれる可能性はあるかもしれない。

(委員)

行きはバスで、帰りはタクシーで、という方がいることに合わせて、高齢者の免許証自主返納事業については、2,000円分のタクシー補助券を渡している。タクシーだけではなく、バスなどの公共交通機関全体と絡めながら、善処していきたい。

(議長)

パスケース利用者数の延べ利用者数ではなく、実質の利用者数は把握しているか。

(事務局)

していない。

(委員)

現在のバスの維持管理経費はどのぐらいか。

(事務局)

東海市で運行しているバス6台をあわせて、市の負担金としては約1億3千万円程度である。

(委員)

らんらんバスを運行していない時間に、知多乗合(株)が運用することはできないか。企業と市の共存ができるのではないか。

(事務局)

らんらんバスは循環バスとして、知多バスは路線バスとして、お互いに補完しあう性質を持っている。また、循環バスの利用者が増えている現状を踏まえると、バスだけではなく鉄道やタクシーなどの公共交通を含めて市内の交通手段の利便性を高めていきたいと考えている。

(議長)

バスの利用が増えることはうれしい悲鳴ではあるが、利用が増えると高齢者が立乗りになり、安全性が危ぶまれる。しかし、バスを簡単に増やすこともできないという現状もあるため、慎重に検討していく必要がある。

(会長)

高齢者の無料化パスケースに関しては、まだ1年が経過していない。今後、

データやさまざまな御意見・御要望を集めていく。また、昨年度に実施したO  
D調査<sup>1</sup>での課題もあるため、どこかの時点で再度調査し、ルートやダイヤを見  
直していく議論をこの場で行なっていきたい。

(4) 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果の通知について

事務局による資料4の説明

(議長)

第三者評価委員会の指摘事項で、特に留意すべきことはあるか。

(事務局)

らんらんバスは、知多バス横須賀線のフィーダー（支線）として補助金を受  
けているが、横須賀線の利用者数が減少している点が指摘されている。互いが  
補完し合うための方策として、どのようなことができるか考えていきたい。

6 協議事項

(1) 平成28年度東海市地域公共交通会議決算書について

事務局による資料5の説明

<議長による承認採決>

(一同)

承認

(2) 平成29年度事業計画案について

事務局による資料6の説明

<議長による承認採決>

(一同)

承認

(3) 平成30年度生活交通確保維持改善計画（案）について

事務局による資料7の説明

(委員)

この計画を用いて申請する補助金の要綱が先般通知されたばかりで、これま  
でのものと様式等も変更になっている。修正などについて御留意いただきたい。

(委員)

---

<sup>1</sup> バス利用者の乗車バス停（起点 origin）及び降車バス停（終点 destination）等の調査

県内の地域幹線系統の補助金は、愛知県のバス対策協議会でまとめて申請することとなっている。なお、東海市に關係する幹線系統は知多乗合（株）の横須賀線と、公立西知多総合病院に乗り入れている知多市のあいあいバスである。こちらの申請も順次行なっているところなので、御承知置きいただきたい。また、お気づきの点があれば、ぜひ御指摘いただきたい。

<議長による承認採決>

(一同)

承認

(4) 東海市地域公共交通網形成計画の推進について

事務局による資料8の説明

(委員)

らんらんバスの停留所で、側溝の上においてあるものがあるため確認してほしい。

(事務局)

場所を確認し、対応を検討する。

(委員)

地域公共交通網形成計画の推進において、PDCAサイクル<sup>2</sup>は重要である。そのためOD調査は非常に重要で、その結果をもとに次回の公共交通会議を進めていくことが大切である。ぜひ、この調査を実施していただきたい。また、バスの乗り方教室を積極的に実施していくことも有意義である。

(議長)

平成28年度のOD調査の結果をみると、非常に多くの乗客がいる便があることがわかる。バスの座席数はどれほどか。

(事務局)

北・南ルートを走っている小型バスは座席が11、立ち席が24、運転席が1、である。中ルートを走っている中型バスは、座席が25、立ち席が31、運転席が1、である。小型バスについては、場所によっては半数以上の方が立っている区間もある。立ち席が多いと安全性の低下が懸念され、また、利用者

---

<sup>2</sup> Plan (計画)、Do (実行)、Check (検証)、Action (改善) をひとつのサイクルとし、事業等をよりよく変えていく手法

が多いことで乗降の時間がかかり、遅れが生じる。今年度は、乗降調査や定時運行調査を行ない、結果をもとにしてダイヤ等の見直しを行なっていくべきと考える。

(会長)

小型は現行の車種しかないのか。

(事務局)

現行のもののみとなる。全国でも、小型バスはほぼこの車両である。座席数は少ないが、通路が広く車椅子の方などを乗せやすいため広まっている。

(議長)

購入にはどのぐらいの期間がかかるのか。

(事務局)

1年半から2年ほど期間を要する。

(委員)

現行の車種は座席は少ないが通路が広いと、高齢者の方や病院通いの方は座れないという声がある一方で、ベビーカーを使う子育て世代には便利だという声もある。

(委員)

混雑時に、乗りこぼしはないか。

(事務局)

乗りこぼしはないと聞いている。定員を超えたということも聞いていない。

(委員)

20名ほど乗れるようなマイクロバスや、ワンボックスなどの車両だと、維持管理がバスよりは安くなるのではないかと思う。現在、バスを6台運用しているとのことだが、ワンボックスなどを数十台運用し、便数を増やすのでも全体的な経費に変わりはないのではないか。

(会長)

他の市町では、バスではない車両を運用しているところもある。便数を増やすことが解決策になりえると思うが、今後、乗降調査等を行ないどのような課題があるかを把握し、方向性を検討していきたいと考える。

(議長)

加えて、遅延の問題もある。10分は大幅な遅れであるので、時刻を乗降の所要時間にあわせたダイヤにするか、ルート自体の見直しも必要になる。1周100分は循環バスとして長い。事務局から、改定ダイヤやルート、それに伴うメリットデメリットなどの提案が可能であれば必要かと思う。

(会長)

さまざまなニーズをどうルートに反映するのも議論の余地がある。

(議長)

いずれにせよ、事故が起こる前の対策が必要となってくる。

(委員)

大府方面でなかなかタクシーがつかまらないという話を聞く。

(委員)

人手不足と、労働時間内の運行で大府方面まで行くことが難しい状況ではあるため、各社で協力して補完しあうことが重要であると認識はしている。

(事務局)

補足として、バスの乗り方教室は大田小学校での実施が決定している。他にも三ツ池小学校で調整を行っている。工夫した内容で実施していきたいと考えている。また、循環バスの有料広告導入については、7月15日号の広報に募集記事を掲載する。また、商工会議所にも依頼をする予定である。

(議長)

広告料はいくらか。

(事務局)

1ルート2台で1カ月2千円である。

(議長)

新任の委員もいるので、交通網形成計画について冊子を送付してはどうか。

(事務局)

会議後、速やかに送付する。

#### (5) バス停の移設について

事務局による資料9の説明

### 7 その他

#### (1) 知多バスへの意見について (要約)

事務局による資料10の説明（上野台線のダイヤ改正についての意見）

（委員）

ダイヤ改正について、一部の方に不便を強いることになっていることは承知している。路線バスでもOD調査を行なっているため、調査の結果を踏まえ、効率化及び市民の足としての両面を考慮しながら検討していきたいと考えている。

（委員）

路線バスの利用状況を、会議の場で報告できるものはないか。

（委員）

事務局と相談しながら、路線バスの状況について公表していきたいと考える。

(2) 愛知県より、机上配布した資料について説明

8 閉会のことば